

3. 消費地からのホットニュース、トピックス

平成15年上半期(1～6月)の青果物取扱高速報

(東京中央卸売市場 東京都公表)

～単価アップでも数量減で売上苦戦～

(野菜)

区分 年	東京市場総数			同左のうち山形県		
	数量(トン)	金額(億円)	単価(円/kg)	数量(トン)	金額(千円)	単価(円/kg)
平成14年	862,443	1,673	194	2,380	1,278,638	537
平成15年	810,321	1,855	229	2,256	1,235,547	548
前年比(%)	94.0	110.9	118.0	94.8	96.6	102.0

コメント

入荷減の単価高となったが、市場総数では久々に2ケタ台の売上増、山形はやや減少となった。

山形産の場合は、冬季大型露地野菜と施設野菜の高騰時にこれらが微減で、山菜小もの野菜主体であるため売上増に結びつかなかった。

全体的に入荷減となった要因は、昨14年秋頃の台風(関東上陸)と11月以降の定温寒波などによる作柄不振が挙げられる。

(果実)

区分 年	東京市場総数			同左のうち山形県		
	数量(トン)	金額(億円)	単価(円/kg)	数量(トン)	金額(千円)	単価(円/kg)
平成14年	287,966	867	301	2,018	2,319,987	1,150
平成15年	252,530	814	322	1,720	2,299,959	1,337
前年比(%)	87.7	93.9	107.0	85.2	99.1	116.3

コメント

総体的には、みかん等柑橘類の裏年入荷減と初夏果実類の生育遅れ減少傾向が数量減の要因と見られる。

単価は総じて前年を上回ったが、際立って高値品目は見当たらなかった。

金額面では、景気低迷のなか価格が押さえ込まれている感じで、年々低下傾向が見られる。

卸売市場における取引の形態

卸売市場の取引は、わが国の卸売市場制度が整った大正12年以来セリを原則に

営々と続いてきた。

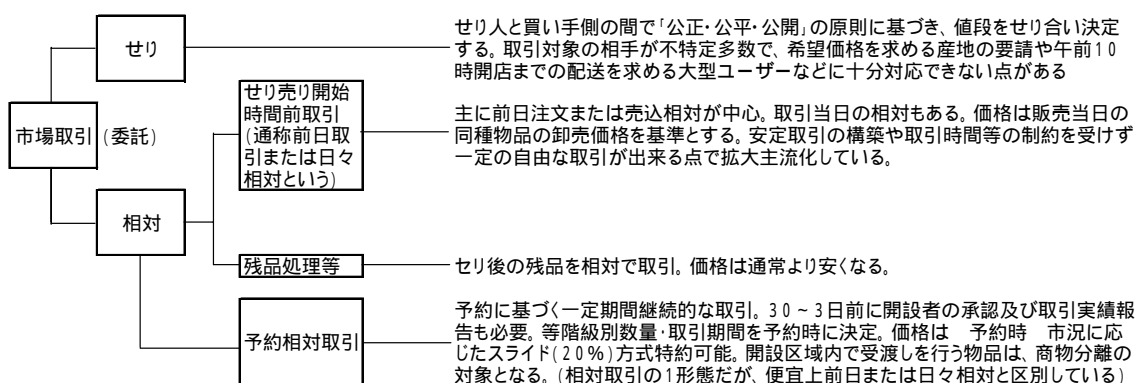
この制度上のセリ原則から、平成11年の法律改正(法第109号)で「相対」が導入され、以来取引はセリ、相対のどちらでも可能になった。

背景には小売店構造の変化や物流合理化要請など時代のニーズがあったといえるであろう。

そこで、相対取引が市場取引の約70%を占めて主流となったいま、あらためて取引の形態を確かめてみた。

なお、この相対取引は情報と時間が命。迅速・的確な情報で計画的な生産や出荷を推進し、合理・効率性の高い安定したビジネスが問われている。

卸売市場における新しい取引の形態

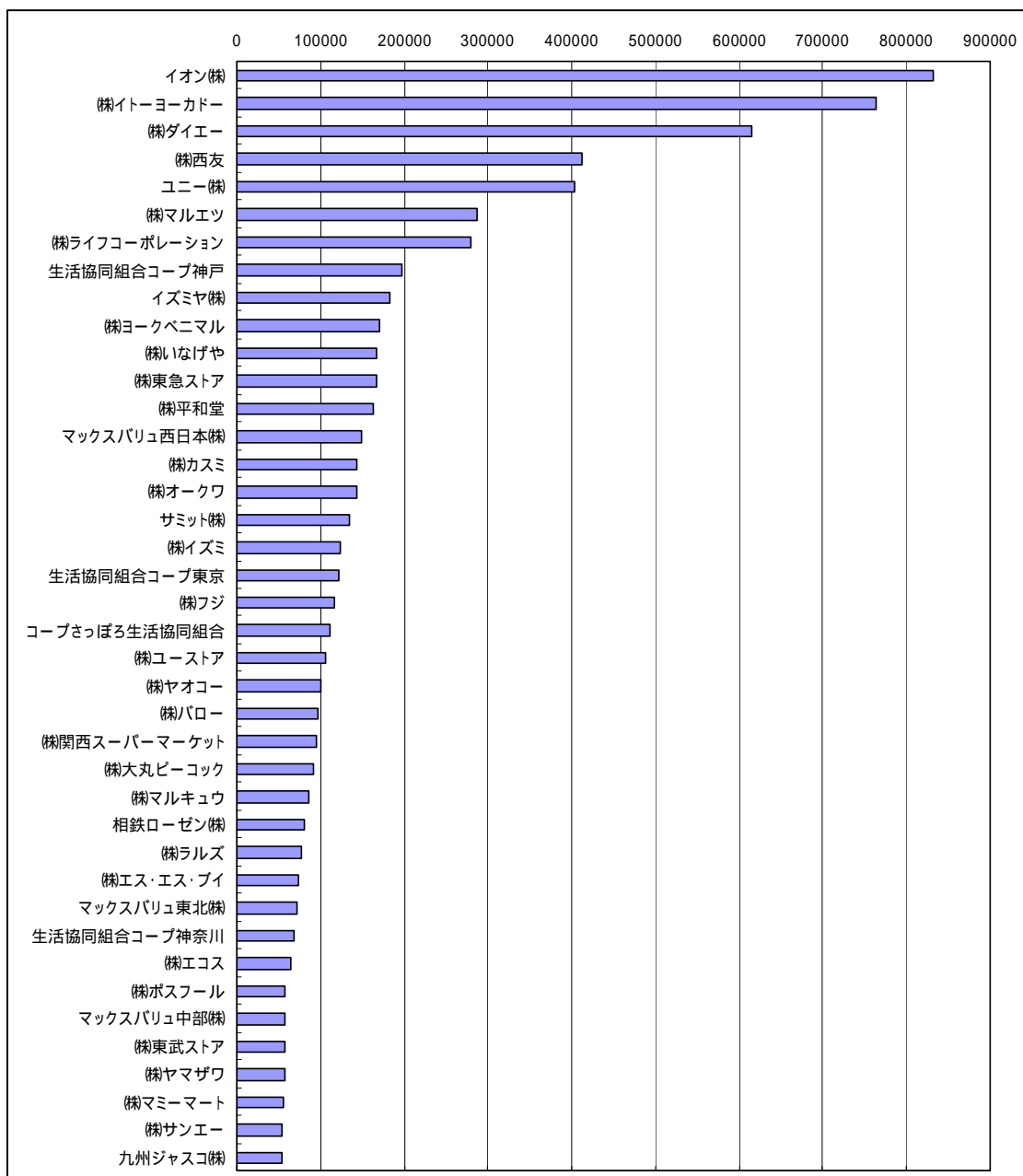


平成14年度スーパー各社の食品売上高ランキング

小売業界を代表するスーパー各社の食品売上高について、日本食糧新聞社の資料によると次の図表のとおりとなる。NO.1 はイオンの約8,300億円。2位以下はイトーヨーカドー、ダイエー、西友、ユニーとG.M.S が続き、S.M で最大の食品売上はマルエツの約2,900億円となっている。

消費の低迷、競合の激化が続くなか、小売業にとって食品が戦略的に最も重要になっているといわれているが、今後どのような商品調達や商品開発に力点を置いていくのか産地サイドでは注視する必要がある。

スーパー各社の食品売上高(日本食糧新聞調 単位:100万円)



消費動向調査

～ 食品輸入に関するアンケート調査～

調査公表機関: 農林漁業金融公庫

調査時期: H14.12.11～24

調査対象: 東京23区及び都道府県の2300世帯
日ごろ各家庭で中心の購入者

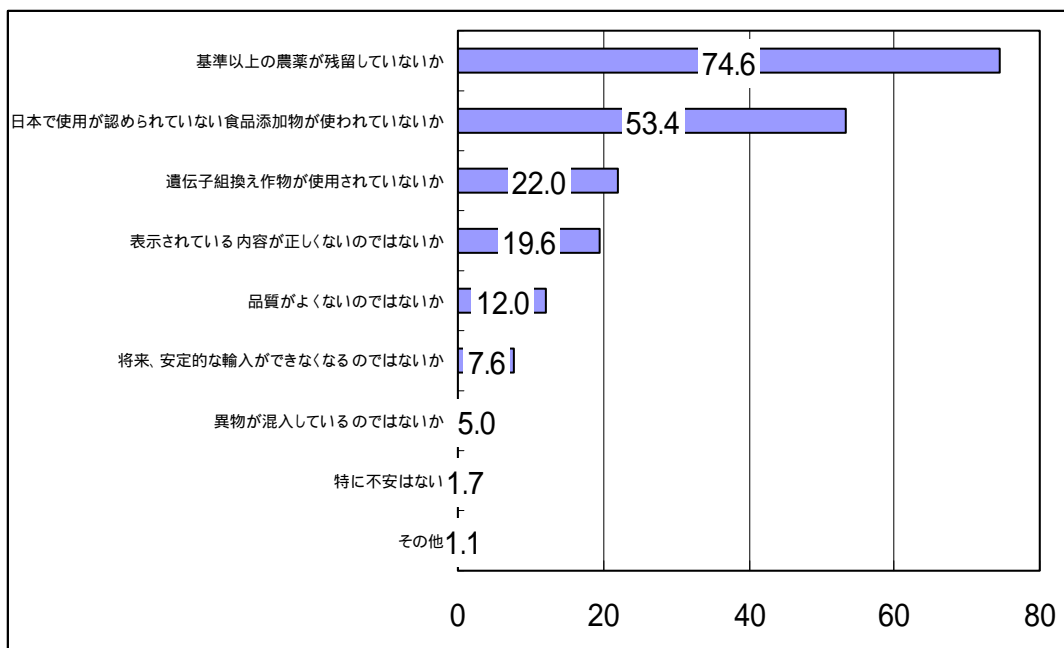
1. 輸入食品をどの程度、購入しているか(年代別)

品目・購入頻度	全体	年代別				
		30代以下	40代	50代	60代以上	
長ねぎ	よく購入している	9.4	16.9	7.8	6.6	10.1
	ときどき購入している	23.0	21.1	25.0	20.9	24.1
	ほとんど購入していない	62.5	53.5	57.0	67.9	63.1
	わからない	5.1	8.5	10.2	4.6	2.7
しいたけ	よく購入している	13.5	21.1	17.8	9.2	12.7
	ときどき購入している	34.4	40.8	34.1	30.6	35.6
	ほとんど購入していない	48.3	32.4	45.0	56.1	48.0
	わからない	3.9	5.6	3.1	4.1	3.7
ブロッコリー アスパラガス	よく購入している	12.0	22.5	16.7	9.7	9.3
	ときどき購入している	36.5	36.6	37.3	35.2	37.2
	ほとんど購入していない	45.8	33.8	38.9	48.5	49.2
	わからない	5.7	7.0	7.1	6.6	4.3
トマト ミニトマト	よく購入している	7.0	5.7	6.3	5.1	8.7
	ときどき購入している	16.6	22.9	16.7	14.4	16.8
	ほとんど購入していない	70.3	64.3	66.7	74.9	70.2
	わからない	6.0	7.1	10.3	5.6	4.3
冷凍野菜	よく購入している	6.2	9.9	5.4	5.7	6.1
	ときどき購入している	21.2	19.7	28.7	18.0	20.6
	ほとんど購入していない	67.9	60.6	62.0	69.1	70.9
	わからない	4.7	9.9	3.9	7.2	2.5
野菜の漬物	よく購入している	8.9	8.5	10.9	9.8	7.7
	ときどき購入している	34.7	29.6	45.3	28.9	35.1
	ほとんど購入していない	51.5	56.3	40.6	53.6	53.5
	わからない	4.9	5.6	3.1	7.7	3.7
果物	よく購入している	23.7	31.0	27.9	25.0	19.8
	ときどき購入している	53.2	42.3	55.8	53.1	54.6
	ほとんど購入していない	21.2	25.4	16.3	19.9	22.9
	わからない	1.9	1.4	0.0	2.0	2.7
牛肉	よく購入している	17.2	18.3	36.4	16.8	9.7
	ときどき購入している	37.8	47.9	38.0	37.2	36.2
	ほとんど購入していない	43.7	33.8	25.6	44.4	52.3
	わからない	1.2	0.0	0.0	1.5	1.8

コメント

国産品と競合する品目についてみると、「購入している」は果物が高く、「購入していない」はねぎ、とまと、ミニとまと、冷凍野菜が比較的高い
年代別に見ると、輸入品を購入する割合は年代が低い方が高く、年代が高い層ほど低い傾向がある。

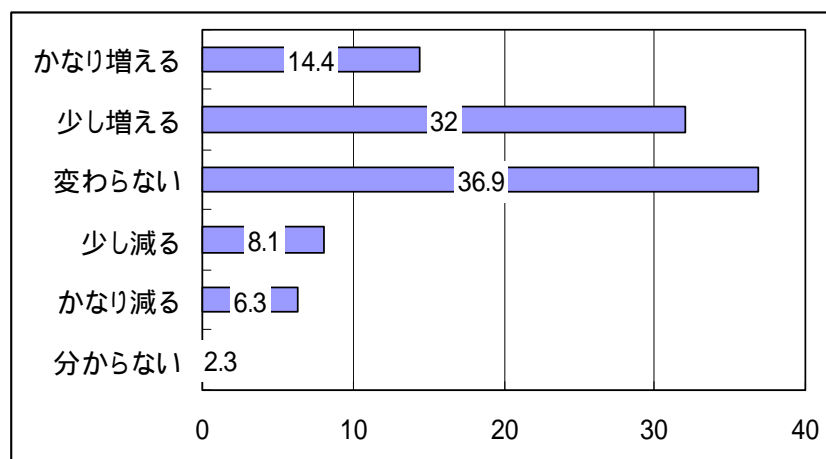
2. 輸入食品について不安なこと



コメント

不安なことは「基準以上の農薬が残留していないか」が74.6%、次いで「日本で使用が認められていない添加物が使われていないか」が53.4%で安全性に関する不安が大きい
 「特に不安はない」は、1.7%にとどまっている。

3. 今後、輸入食品を購入する機会は増えると思うか



コメント

今後増えると考えている方は、46.4%に対して、減ると思う方は14.4%となっている

関西・中京の市場動向とホットニュース

名古屋中央卸売市場の流通動向（h15年6月～8月）

品目別・産地別取扱高の順位

野菜品目別上位

順位	6月		7月		8月	
	品目	数量	品目	数量	品目	数量
1	たまねぎ	4,691	たまねぎ	4,043	たまねぎ	4,101
2	キャベツ	3,197	キャベツ	3,268	キャベツ	3,348
3	ばれいしょ	3,001	はくさい	2,905	はくさい	2,692
4	だいこん	2,620	だいこん	2,737	だいこん	2,647
5	きゅうり	2,246	ばれいしょ	2,079	ばれいしょ	1,958
6	はくさい	2,182	レタス	1,910	トマト	1,816
7	トマト	1,890	きゅうり	1,725	にんじん	1,646
8	レタス	1,617	トマト	1,421	きゅうり	1,637
9	かぼちゃ	1,503	にんじん	1,196	レタス	1,573
10	にんじん	1,092	かぼちゃ	1,163	かぼちゃ	1,185

野菜産地別上位

順位	6月		7月		8月	
	品目	数量	品目	数量	品目	数量
1	愛知	10,097	長野	8,942	北海道	9,473
2	長野	5,585	愛知	4,721	長野	7,675
3	長崎	2,275	北海道	3,475	群馬	2,712
4	茨城	2,227	青森	3,017	兵庫	2,513
5	青森	2,030	兵庫	2,316	岐阜	2,425

果実品目別上位

順位	6月		7月		8月	
	品目	数量	品目	数量	品目	数量
1	すいか	3,220	すいか	4,536	すいか	2,939
2	青バナナ	2,436	バナナ	2,225	幸水	2,505
3	バナナ	2,367	青バナナ	1,318	バナナ	1,758
4	グレープフルーツ	1,359	白鳳	1,294	青バナナ	1,477
5	その他メロン	1,260	その他メロン	1,209	ハウスみかん	922
	さくらんぼ	13位		13位		-
	デラウェア	12位		8位		9位
	アンデスメロン	15位		18位		30位

果実産地別上位

順位	6月		7月		8月	
	品目	数量	品目	数量	品目	数量
1	フィリピン	4,871	フィリピン	3,806	フィリピン	3,483
2	愛知	3,188	愛知	3,556	長野	3,416
3	アメリカ	2,571	アメリカ	1,488	愛知	2,335
4	熊本	1,344	山形	1,089	山形	1,728
5	茨城	940	山梨	1,023	アメリカ	1,132

主要品目の取扱高

品目	月	総量 t	山形県産品		上位県		
			数量 t	順位	1	2	3
さくらんぼ	6	412	215	1	山形	アメリカ	山梨
	7	341	55	3	アメリカ	北海道	山形
	8	12	-	-	アメリカ	北海道	-
デラウエア	6	425	-	-	島根	大阪	山梨
	7	585	285	1	山形	島根	山梨
	8	555	449	1	山形	山梨	愛知
アンデスメロン	6	401	16	2	茨城	山形	愛知
	7	239	159	1	山形	茨城	愛知
	8	38	34	1	山形	北海道	青森
すいか	6	3,220	-	-	愛知	熊本	鳥取
	7	4,536	433	4	愛知	石川	長野
	8	2,939	1,142	1	山形	長野	石川

～ 名古屋市中央卸売市場月報より ～

重陽の節句「米と菊と栗で祝う 秋のUTAGE 2003」

～ お米ギャラリー心齋橋 ～

大阪市西心齋橋のお米ギャラリー心齋橋で9月9日に重陽の節句「米と菊と栗で祝う 秋のUTAGE 2003」というイベントが開催された。

5節句の1つ「重陽の節句」が別名「菊節句」ともいわれ、長寿を祈願し菊を食するという風習があることから、この日にJA全農山形県本部の協力のもと毎年開催されている。

菊と栗ご飯の試食会や平安貴族の当時の衣装で再現した宴の展示、重陽の節句に関するクイズ等が行なわれた。